

# VIEW21

〈ビュー21〉

高校版

Volume 6

2015  
February

2月

PDF版では表紙の写真は公開しておりません。  
ご了承ください。

教師の背を見せ  
生徒を育てる

特集

変化を生き抜く「軸」と「修正力」の育成③

## 高みに挑む 教科外活動

ベネッセ教育総合研究所

新課程 指導最前線

2年生から3年生への  
つなぎ指導のあり方

指導変革の軌跡

石川県・国立金沢大学人間社会学域  
学校教育学類附属高校

長崎県立 奈留高校

特別企画

第2回 GO GLOBAL  
JAPAN EXPO 開催レポート

2015  
February

2 月

高校版

Volume

6

今月の表紙メッセージ

**教師の背を見せ  
生徒を育てる**

◎今号の特集で取り上げる、文化祭や体育祭、部活動といった教科外活動は、多くの学校が生徒の自主性に任せているようです。しかしながら、そこで「軸」や「修正力」を育むためには、授業同様、教師の本気の姿を生徒に見せることが重要です。それはなぜか——4つの事例から考えてまいります。

『VIEW21』高校版  
編集長 柏木崇

## 2 私を育てたあの時代、あの出会い

## 同期から学んだ進路指導のあるべき姿

千葉県立船橋高校◎山口久美

## 4 特集

## 変化を生き抜く「軸」と「修正力」の育成③ 高みに挑む教科外活動

## 6 学校事例 教科外活動を通じて育む 次代を生きる「軸」「修正力」

## 事例1 進路行事 東京都立小山台高校

生き生きと働く人の熱に触れさせ、確固たる志を持った「大学からの人間」を育てる

## 事例2 部活動 千葉県立船橋古和釜高校

大好きな野球を通じて、自ら物事に取り組む自主性と仲間と協力し合える力を育む

## 事例3 運動会 愛媛県立松山東高校

仲間と全力を尽くす中で、より良い価値を生む関係のあり方を学ぶ

## 事例4 文化祭 大分県立大分舞鶴高校

高校生らしい高みを生徒に求め、劇づくりの過程の中で教師も生徒と共に挑戦する

22 座談会 生徒同士が高め合う場、ロールモデルと出会う機会を  
校内につくり続ける東京都立小山台高校 山本美園 / 千葉県立船橋古和釜高校 望月正彦  
愛媛県立松山東高校 石丸隆祥 / 大分県立大分舞鶴高校 田所 伸

## 28 新課程 指導最前線

## 2年生から3年生へのつなぎ指導のあり方

山形県立鶴岡南高校 / 福井県立敦賀高校

## 32 指導変革の軌跡

## 石川県・国立金沢大学人間社会学域学校教育学類附属高校

スーパーグローバルハイスクール(SGH)◎地域→海外と段階的に発展させる課題研究でグローバル人材を育成

## 長崎県立奈留高校

小中高一貫教育◎「小さな島の大きな挑戦」12年一貫の校種を超えた教育で生きる力を育む

## 40 生きたデータの徹底研究

## 2年生を学校の中核に育てる初期指導

## 44 特別企画

グローバル化を牽引する全国61大学が大集合!

## 第2回 GO GLOBAL JAPAN EXPO 開催レポート

## 48 未来をつくる大学の研究室

## 人間の集団を観察し続け、循環器疾患の克服・予防を目指す

滋賀医科大学 社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之研究室

## 52 VIEW'S REPORT

先生主催「学び直し勉強会」in 首都圏

## 進路成就率向上を目指して——学習力を育む「学び直し」のあり方を考える

「第9回全国高校生英語ディベート大会 in 静岡」開催

## 38都道府県64校が出場! 高校生が英語力、論理力を競う全国大会

## 64 Reader's VIEW

<http://berd.benesse.jp> 本誌記事は、ベネッセ教育総合研究所のウェブサイトでもご覧いただけます

\*本文中のプロフィールはすべて取材時のものです。また、敬称略とさせていただきます  
\*本誌記載の記事、写真の無断複写、複製および転載を禁じます

今、振り返る教師としての原点

私を育てた  
あの時代、あの出会い

# 同期から学んだ 進路指導のあるべき姿

千葉県立船橋高校 山口久美

勤務校が変われば、それまでの経験では対応できず、ゼロから学ばなければいけないことが教師にはある。初めて赴任した進学校でいきなり進路指導部に配属になり、右も左も分からない中で進路指導の根幹を教えてくれたのは、採用年次が同じ同僚だった。

## 進学校勤務に戸惑う日々



千葉県立千葉東高校に赴任したのは、教職歴17年目のことでした。進学校に勤務するのは初めてだったので、当初は緊張感でいっぱいでした。

前任校では、学ぶ楽しさを伝え、50分の授業に集中させることに一生懸命だったのに、この高校では、私が教室に入ると全員が注目して授業を聞き、少し説明が足りなかったなと思った時は、授業後に質問の列が出来ました。慣れないうちは生徒の真剣な視線が怖く、進学校の授業のレベルや進度に自分を適応させることに必死でした。

校務分掌は進路指導部となっ

たのですが、教科指導力を付けることで手いっぱい、とても進路のことまで考える余裕はありませんでした。そもそも進学校の進路指導では何をすればいいのかさえ、よく分かっていませんでした。

状況が変わったのは、2年目に勝田幸裕先生が同校に赴任してきてからです。勝田先生は私と採用年次が同じ同期でしたが、進路指導については既にエキスパートでした。最初の年は職員室で隣同士の席で、翌年からは2人とも進路指導室に常駐することにになりました。そこから私は進路指導の根幹を勝田先生から学ぶことになりました。

## 生徒の可能性を潰さない

進路指導部で私たちが最初目指したのは、「進路指導室を生徒が相談に来やすい場にする」とことです。当時の千葉東高校には、「生徒は自分が受験したい大学を受験すればいい。結果は自己責任だ」という雰囲気がありました。また生徒も学校をあまり頼りにしていませんでした。しかし、これでは生徒の自己実現を支援することは困難です。教師は生徒のことをよく理解した上で温かく見守り、生徒は教師を信頼しているという関係をつくる必要があります。

勝田先生は生徒が進路について相談に訪れた時に、決して頭ごなしに「駄目だ」と言わない先生でした。例えば、部活動を引退した3年生の7月から受験勉強を始めた生徒が、東京大を受けたいのだけれど、世界史の対策が手付かずだと、10月になって相談に来たことがありました。そのような時期から新たな科目の学習を始めることに対して戸惑う教師もいる中、勝田先生は同じ進路指導室にいた地歴科の先生に、世界史の勉強の仕方の指導を依頼されたのです。進路指導部の全教師でその生徒を支えた結果、見事、現役合格を成し遂げてくれました。

生徒が自分なりの思いや志から進路変更を申し出た際に、教師が「無理だ」と否定してしまったり、生徒は希望を閉ざされてしまいます。教師のひと言は重いからこそ、教師は生徒の

## 同僚教師の言葉

同じ方向を向いて  
一緒に進路指導に  
取り組んだ

千葉県立桜が丘特別支援学校 教頭

勝田幸裕



私たちが千葉東高校に勤務したのは、同校が千葉県

の進路指導重点校に指定され、全体の指導の体制を整え始めた時期でした。取り組みは全国の先進校の優れた実践を参考にしましたが、進路指導の姿勢については一本筋が通っていたと思います。それは、「将来、社会のリーダーとして活躍できる人間になるために、何をすべきかを考えてほしい」という思いです。進学実績も気になりましたが、それよりも大学入学後にしっかり伸びる生徒を育てたいと考えていました。そして生徒が進路の相談に来た時には、とことん付き合いました。改革が大きく進んだのは、進路指導部の教員が、同じ姿

左 かつた・ゆきひろ 英語科。千葉県立千葉工業高校、幕張北高校（現・幕張総合高校）を経て、千葉東高校へ。その後、船橋高校（定時制）を経て、現在は桜が丘特別支援学校教頭。

右 やまぐち・くみ 英語科。千葉県立湖北高校（現・我孫子東高校）、泉高校を経て、千葉東高校へ。現在は船橋高校に勤務。進路指導部。

撮影 桜が丘特別支援学校にて



可能性を信じて応援してあげること、そしてその可能性を実現する方策を打ち出すことが大切であることを、私は勝田先生から学びました。

また、勝田先生は目先の大学合格のことよりも、「社会に貢献できる人間になるために、何をすべきかを考えること」の重要性を、いつも生徒に話していました。生徒からの進路相談で

も、成績のことだけではなく、なぜその大学でその学問を学びたいのかを徹底的に尋ねていました。

だから、生徒も私たち進路指導部の教師を信頼してくれ、やがて、放課後になると相談に訪れる生徒の姿が絶えない進路指導室となりました。生徒と信頼関係を築けたことで、進学実績も伸びていきました。

私は今、進学校の船橋高校に赴任して2年目になります。船橋高校でも進路指導部に所属し、千葉東高校時代に学んだ「生徒の思いを理解し、生徒の可能性を信じて応援する。そして、大学合格がゴールではなく、将来を見据えた進路指導をしていくこと」を目指しています。

教師という仕事をしていて一番うれいしいのは、大学生や社会

人になった卒業生が母校を訪ねて来てくれた時です。今、自分が取り組んでいる学問や仕事について、目を輝かせながら話す姿を見る度に、「あの時の進路指導は間違っていないかったんだな」と、実感することが出来ます。社会で自分と周囲の幸せを考えて活躍できる人材を、これからも育てていきたいと思っています。

勢で生徒に向き合えたからだと思います。特に山口先生は、いつも細部まで目を配り、取り組みを具体化する役割を果たしてくれました。「模試の振り返りシート」を、生徒、担任だけでなく、教科担当が書き込めるものへと改良し、生徒が模試の結果を分析しやすくなるように工夫したのです。その取り組みの結果、模試は千葉東高校の教育活動の基軸の1つとなっていました。

当時の千葉東高校の進路指導部では、教師同士の「情報交換」も盛んでした。生徒の学習状況や生活の様子など、いろいろな話をしていました。だから進路指導部の全員が、一人ひとりの生徒のことを多面的に把握し、見守りながら支援していくことが出来たのです。

山口先生は私から「進路指導の根幹を学んだ」とおっしゃってくださいますが、私もまた山口先生と一緒に働く中で、「教師が同じ方向を向き、なおかつそれぞれの役割を担いながら物事に取り組んだ時、大きな成果を得られること」を学びました。千葉東高校の進路指導部時代に経験したことは、私にとって大切な財産となっています。

# 特集

# SPECIAL ISSUE

## 変化を生き抜く「軸」と「修正力」の育成③

# 高みに挑む

# 教科外活動

前号では、教科学習における「軸」と「修正力」、

そしてそれらを育むために必要な指導について考えた。

今号は、文化祭や体育祭、進路行事、そして部活動など教科外の活動に焦点を当て、

「軸」と「修正力」を育む上で教科外活動が果たす役割、

教師に求められる指導について考えていく。

本シリーズで見いだされる  
高校教育における「軸」と  
「修正力」の育成の可能性

8月号からシリーズで考えてまいりました、「変化を生き抜く『軸』と『修正力』の育成」も、今号が最終回となります。8月号において、ますます激しい変化が予想される10年後の社会を生き抜くために必要な力は「軸（をつくる力）」と「修正力」であると問題提起し、10月号では、自己肯定感と多角的な視点が2つの力の土台であること、そして、12月号では、教科学習における2つの力の育成の可能性を示しました。

そして、最終回となる今号では、教科学習活動以外の教育活動、すなわち教科外活動を取り上げることで、高校の全ての教育活動における「軸」と「修正力」の育成の可能性が見いだされます。今回取材にご協力いただいた高校生や卒業生の生の声、そして、先生方の熱い思いから、それを感じていただけるものと思います。

『VIEW21』高校版編集長 柏木 崇

8月号～2月号の共通テーマ

## 10年後を見据えた人材育成

8月号で  
見えてきたこと

- ◎今後10年間も、変化の激しい社会であることが予想される
- ◎そのような社会を生き抜くためには、自分の中に、変化に流されない「軸」（目標や目的、信念、こだわりなど）を持つこと、そして、その「軸」に基づいて柔軟に変化に対応する「修正力」が求められる

本号のテーマ

## 生徒の中に「軸」を育み、 「修正力」を高める教科外活動とは？

### 仲間と共に高みを目指し、 失敗と成功を経験させる教科外活動

#### [P.6～21] 学校事例

##### 事例1 進路行事

生き生きと働く人の熱に触れさせ、  
確固たる志を持った「大学からの人間」を育てる  
東京都立小山台高校

##### 事例2 部活動

大好きな野球を通じて、自ら物事に取り組む自主性と  
仲間と協力し合える力を育む  
千葉県立船橋古和釜高校

##### 事例3 運動会

仲間と全力を尽くす中で、  
より良い価値を生む関係のあり方を学ぶ  
愛媛県立松山東高校

##### 事例4 文化祭

高校生らしい高みを生徒に求め、  
劇づくりの過程の中で教師も生徒と共に挑戦する  
大分県立大分舞鶴高校

#### [P.22～27] 座談会

#### ～教科外活動で、生徒の「軸」と「修正力」を育むための指導の観点～

◎視野を広げ、自分の可能性に気付く機会をつくることで、大きな志を持たせる。更に、情報収集力や情報分析力を高めていくことが、修正力の育成につながる



東京都立小山台高校 山本美園

◎生徒の思考や学力に合わせて、自分の状況を解釈するためのヒントを教師が与える。生徒の動きを見て、なぜそうしたのかを聞き、「こうすればもっと良くなるよ」と修正力を高める後押しをする



千葉県立船橋古和釜高校 望月正彦

◎生徒が大きな夢を持つためには、彼らと接する私たち教師も、大きな夢を持つことが大切。教師が軸を持ち、修正していくモデルとして、自分の姿を生徒に見せる



愛媛県立松山東高校 石丸隆祥

◎成功体験は、その先、何かでつまづいていた時に立ち直る際の原動力となる。そうして、成功体験を土台にしながら失敗を乗り越えることで、修正力は養われていく



大分県立大分舞鶴高校 田所伸

# 教科外活動を通じて育む 次代を生きる「軸」「修正力」

変化の大きな時代の中で、志を持ってより良く生き抜くために必要な「軸」と「修正力」。高校生活で「軸」と「修正力」を育むために、教科外活動はどのような役割を果たすことができるのだろうか。

## 事例 1 進路行事

生き生きと働く人の熱に触れさせ、  
確固たる志を持った  
「大学からの人間」を育てる

東京都立小山台高校

### 東京都立小山台高校 キャリア教育プログラム 概要

生徒が自らの可能性や将来の夢・目標を発見し、主体的な進路選択が出来るよう、学年ごとに目標を設定し、外部講師と協力しながら、様々な進路行事を実施している。

1年生では、「自分と社会のつながりから進路を意識する」を目標に、

様々な社会人によるキャリアガイダンスや留学生との交流などを通して、未来の自分像を探す。2学期から3学期まで、社会的な課題からテーマを1つ設定し、その解決策をスライド6枚にまとめて提案する探究型プロジェクトに取り組むことで、大学



### 東京都立小山台高校

◎東京都の進学指導特別推進校として、高度な学力の養成と主体的な進路選択能力の育成を軸に、進路指導を展開する。進路指導の強化を開始した2006年度以降の7年間で、国公立大合格者、難関私立大合格者はいずれも3倍に増加している。また、「班活動」と呼ばれる部活動も盛んで、加入率は延べ100%を超える。

◎1923（大正12）年設立。全日制・定時制／普通科／共学。1学年約300人。2014年度入試では、国公立大は、筑波大、千葉大、一橋大、東京工業大、横浜国立大などに65人が合格。私立大は、慶應義塾大、上智大、明治大、早稲田大などに延べ590人が合格（現役のみ）。

〒142-0062 東京都品川区小山3-3-32

<http://www.koyamadai-h.metro.tokyo.jp/>

や社会で求められる課題発見力、問題解決力、表現力を育成する。

2年生では、「目標を定めて進路を見通す」を目標に、自らが目指す職業や夢につながる学問、それを学べる学部・学科、大学について、大学見学会や卒業生による進路懇談会、研究者による模擬授業などを通して考え、2学期末までに第1志望を絞り込む。そして、冬休み前の「冬

期勉強合宿」を経て、3年0学期から本格的に受験勉強に取り組む。また、学年を問わず、研究所訪問や理科講義実験、開発現場見学会などに参加する。

3年生では、「受験は団体戦」を念頭に、協同学習、班活動(II部活動)単位での勉強会などを通して、最後まで第1志望を諦めずに、全員で受験に臨む雰囲気を校内に醸成する。

## 卒業生が語る



エネルギー関連会社勤務  
社会人1年目  
**中山冬李**  
なかやま・とつり

## 志を持つことで、大学も就職も ゴールではなくスタートになる

### 大学はゴールではないと 社会人から学びました

小山台高校在学時に経験したキャリア教育の中で、私が最も大きな影響を受けたのは、社会人によるキャ

リアガイダンスです。法曹、技術者、マスコミなど多様な社会人の方々が話をしに学校に来てくださいました。私は1年生から2年生にかけて、4、5人の社会人の方の話を聞きました。その中の1人に、早稲田大

## 写真 社会人によるキャリアガイダンス



第一線で活躍する社会人から、仕事のやりがいや生き方、進路選択の考え方を学ぶ。2014年度は17講座を開講した。

を拠点に国際協力NGOを設立し、世界の貧困の解決のために精力的に活動している方がいました。

「大学生の時、海外を歩く中で、社会の課題が具体的に覚えてきて、その解決に自分はどうかわわっていかくか、人生の方向性がはっきりしてきた」とその方が語るのを聞き、私は「大学生はその気になれば世界に飛び出していけるんだ」「自分にはいろいろな可能性があるんだ」と思うようになりました。そして、大学はゴールではなく、大学で何を学ぶのか、そこで得たものをその後の

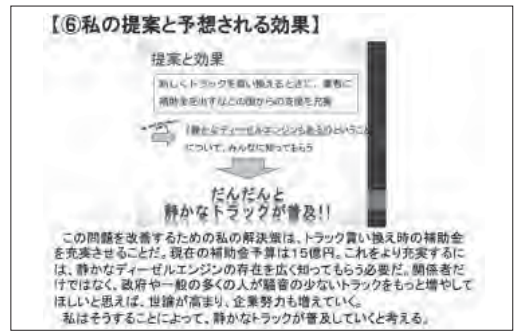
キャリアにどうつなげていくのかが重要なのだと考えるようになったのです。それは、高校時代、私が進路を考える際のぶれない軸となりました。

「早く大学生になりたい」。そう思うようになると、高校の勉強にもそれまで以上に一生懸命取り組むようになり、世界で今何が起きているのかを知るために、新聞も丁寧に読むようになりました。

### 大学生活に期待したから、 大学名はこだわりませんでした

また、キャリアガイダンスでいろいろな社会人の方々の話を聞いたことで、社会課題の解決へのアプローチ方法は様々あることが分かり、進路の選択肢が増えた気がしました。一番関心があるのは途上国の支援だけれど、他の分野でも活躍する自分が想像できるようになったのです。だから、大学では専攻だけでなくいろいろな勉強しようと思いました。第1志望の国立大が不合格となり、併願大だった早稲田大に合格し

資料 探究型プロジェクト発表スライド



「社会を知る」探究型プロジェクトでは、社会課題とその解決策を探究し、スライド6枚にまとめて発表する。

た時、1年後の再チャレンジを勧め  
てくださる先生もいらつしやいま  
した。しかし、「この大学でなければ」  
といったこだわりがなかった私は、  
早く大学生になって、興味のある世  
界を自分の目で確かめたいと考え、  
早稲田大への進学を決めました。  
大学では、もちろん国際協力N  
GOに参加しました。カンボジアに  
学校をつくるプロジェクトに携わる  
ことになり、どのような学校が必要  
か、建設後のマネジメントは誰が行  
うのかなどを現地に行って調査した  
り、日本国内の企業にコンタクトを  
取って、支援をお願いしたりしまし  
た。私自身がかかわったプロジェク

トとして、最初に学校が完成したの  
は3年生の時です。仲間と力を合わ  
せれば、大学生でもこれだけのこと  
が出来るという達成感を味わう一方  
で、世界の貧困という大きな課題を  
解決するための道のりの長さを改め  
て感じました。

大学までの人間ではなく、  
大学からの人間でありたい

今、私はエネルギー関連の会社で  
働いています。エネルギーは世界の  
平和や貧困に大きな影響を及ぼす重  
要な要素です。採用面接では、「日  
本の持続的な発展に貢献しながら、  
途上国にとってもWIN-WINな関係  
を構築したい」と、私が中高生の頃  
から抱いていた思いを語りました。

私は、大学進学がそうであったよ  
うに、進路選択の局面で、全て当初  
思っていた通りの道を歩いてきたわ  
けではありません。ただ、キャリア  
ガイダンスで話をしてくださった社  
会人の方々はみなさん、何らかの挫  
折や失敗、進路変更を経験していま  
したし、「その経験が力になる」と  
おっしゃっていました。社会人に  
なった私も、今、そう思っています。

教師が語る



東京都立小山台高校  
山本美園 やまもと・みその  
教職歴28年。同校に赴任して10年目。進路主幹。

大学生の時に、小山台高校の後輩  
向けにキャリアガイダンスの素晴ら  
しさと高校生にとっての意味を説明  
する文章を書かせていただきました。  
その時に私が書いたのは「志を

持つことの大切さ」です。大学まで  
の人間ではなく、大学からの人間に  
なるには、志が必要です。それは、  
社会人として仕事をしていく際にも  
重要なものだと思うのです。

志とそれを実現する力を  
育むのがキャリア教育

生徒の世界を広げる機会を  
つくりたいと思いました

キャリアガイダンスは、社会人の

話を通して、人生には数多くの選択  
肢があることを生徒に伝えると共  
に、生徒が生きていく上で必要な志  
や夢、目標を育むきっかけにしてほ  
しいという思いから始めました。

私は、面談などで生徒が語る夢が、  
限定的なものになっていると感じて  
いました。「そういう分野に興味があ  
るのなら、こんな進路もあるよ」

とアドバイスすると、「そうなん  
ですか!」と素直に驚く生徒に、出  
るだけ多くの情報、選択肢を与え  
たいと思ったのです。

実際、世界の動きや社会問題に興  
味を持つようになった生徒は、自  
分で講演会などに参加して、視野を  
広げ、主体的に進路を考えるようにな  
ります。そして、それと歩調を合わ  
せるように学力も伸びていきます。  
中山さんがまさにそうでした。大学  
在学中も、そして就職してからも、  
自分で人生を切り開いている中山さ

## 学校の思いと外部をつなぎ 生徒の心に響く活動をつくる

東京都立小山台高校 進路アドバイザー  
川上崇穂 かわかみ・たかほ



本校の進路アドバイザーになって8年目になります。普段は自動車メーカーの技術者として働いていますので、活動は土日などの空いている時間を中心です。社会人・職業人の視点を生かして山本先生とキャリア教育の企画を立案し、キャリアガイダンス講師との講演内容の調整などを行います。

社会人講話というと、仕事内容を話してもらいことが多いのですが、本校のキャリアガイダンスでは、「働くことの魅力」と「講師の魅力」とを掛け合わせて話してもらいことを大切にしています。そのため、講演をお願いする人が決まると、必ず打ち合わせにうかがい、私たちの企画への思いを伝えます。講師は、キャリア教育の全体像を知らないのです。全てをお任せするわけにはいきません。1、2時間掛けて講師の体験や考えを聞き、本人と仕事

の魅力が最も伝わる講演内容を一緒につくり上げます。また、当日のスライド、配布資料を事前に確認し、エピソードの伝え方、情報量の調整など、必要に応じて修正を依頼します。全ては、生徒の皆さんに良い出会いを見つけてもらうためです。

以前、中山さんに「もしキャリアガイダンスに参加しなかったら、どんな進路を選んでいたと思う？」と聞いたことがあります。その時、彼は「進んだ道は同じだったかもしれないけれど、目標に向かう頑張り方や大学生活の過ごし方が違ったと思います」と答えてくれました。私は中山さんを、将来、世界を動かす可能性を持った人だと思っています。その可能性はともともと秘められていたものでしょうが、少しでもそれを高めることに私が貢献できたのならとてもうれしいです。

んの姿を知って、彼のようなたくましさを持った生徒を1人でも多く育てたいと改めて思いますし、キャリアガイダンスを通して志を育んでくれたことは教師冥利に尽きます。

### 心に響く言葉を届け、「なぜ？」と問い掛けたい

生徒が志を育むキャリア教育を実現するためには、まず、仕事を心から楽しんでいる人の話を生徒に聞かせることが大切だと思います。モデルとなる人の言葉は、生徒の心に届くはず。そして、そうした中で生まれた生徒の興味・関心に、「なぜ？」と問い掛けることも重要です。例えば、本校の1年生が取り組む探究学習では、私たちが「なぜ、そのテーマに興味を持ったの？」と問う中で、生徒の気付きは自分の中で素通りせず、具体的になっていきます。キャリア教育の目的は、将来の夢や目標から、進むべき学部・学科・大学を考えるだけではなく、志を持ち、それを実現するためにはどうすればよいかを考え、実行できる人を

育てることです。中山さんは、早稲田大進学を決意した時も、その志を私に感じさせてくれました。志を持つと、人は必要な勉強に自ら取り組みます。それは、高校生であれ大学生であれ同じですし、そうなること、教科の好き嫌いを口にしなくなります。志を実現するためには、あらゆる学びが自分に必要だと知るからでしょう。



# 大好きな野球を通じて、自ら物事に取り組み自主性と仲間と協力し合える力を育む

千葉県立船橋古和釜高校

## ●千葉県立船橋古和釜高校 野球部の取り組み 概要

監督を務める矢口博之先生が2011年度に同校に赴任した当初は、部員はわずか5人しかおらず、大会の時には他の運動部の部員の助けを借りて試合に臨んでいた。そうした中、荒れていたグラウンドを整備し、徐々にチームの強化を図っていった。13年度には、前任校の津田沼高校で野球部監督を務めていた望月正彦先生が同校に赴任し、野球部部长に就任。現在の体制が整う。今年は、2年生9人、1年生8人、マネージャー2人で、強豪校も多い千葉県予選を戦う。

指導方針としては、生徒たちの自主性を育むことで、自分で考えて練習や試合に取り組むことが出来るチームづくりを目指している。また、「文武両道」を掲げ、野球部の活動と勉学の両立を大切にしている。

自主性を育むための取り組みとして、生徒が自分の気付きや考えたことを記入する「野球ノート」の活用、毎週月曜日に行く読書会などがある。また、生徒の学習意欲の向上を図るため、校内の漢字テストにおいて野球部としての目標点数を設定し、全員で学習に取り組むといったことも行っている。

「今のチームは確実に力が付いてきている」と望月先生が語るように、14年秋季千葉大会2次予選では、夏の県大会準優勝校を相手に0対4と善戦。今後の飛躍が期待される。

## 生徒が語る 1



千葉県立船橋古和釜高校  
2年生  
山口信之  
やまぐち・のぶゆき

自分の成績だけではなく、チームや仲間のことを考えられるようになった

ノートで課題を整理し、主体的に練習しています

なぜ生徒が自主的に出来ているかというと、「野球ノート」の存在が大きいと僕は思います。

船橋古和釜高校野球部は楽しく野球が出来るチームです。中学校までは、ミスをする監督からすごく怒られたので、「ミスをしないように」ということばかりをいつも気にしていました。でも今は、「人間は成長のためには、時には挑戦をして失敗することも大切だ」ということがチーム全体の考え方なので、思い切ってプレーが出来ます。

僕らが伸び伸びと練習や試合に臨めるのは、部長の望月先生や監督の矢口先生が、生徒の自主性を尊重してくれているからです。生徒も一人ひとりが目標を持って、自主的に練習に取り組むことが出来ています。

チームでは、それぞれが試合や練習の時に気付いたことを、自分の野球ノートに書くようにしています。僕の場合、初めは数日に1回のペースでしたが、途中からは毎日書くようになりました。頭の中だけで考えたことはすぐに忘れてしまうけれど、書いておけば忘れてしまっても、書いておけば忘れなくても読み返せます。書くことで課題や目標が明確になり、練習や試合もテーマを持って取り組めるようになります。

ノートに書く内容も、1年生の頃と比べると成長したと思います。最初は自分の成績や技術的なことばかりを書いていたのですが、今は精神的なことや、チームのことをたくさん



### 千葉県立船橋古和釜高校

◎生徒の適性を考えた進路実現を目指し、「キャリア教育」の充実と「学び直し」に力を入れている。1年次は全ての科目において少人数授業を実施。社会で求められるスキルや基礎・基本の習得を図る。2015年度より、千葉県の「地域連携アクティブスクール」として、自立した社会人の育成に更に注力する。

◎1980（昭和55）年設立。全日制／普通科／共学。1学年約200人。2013年度卒業生のうち、大学・短大への進学は約17%、専門学校は約36%、就職は約33%。2014年度入試では、日本大、麗澤大、千葉工業大などに延べ26人が合格。

〒274-0061 千葉県船橋市古和釜町 586

<http://www.chiba-c.ed.jp/funabashikowagama-h/>

ん書くようになりました。副キャプテンになったからかもしれないませんが、自分のことだけを考えていたら、チームは強くないだろうし、自分も成長できないと思うのです。僕のポジションはピッチャーなのですが、今はひじをケガしているの

で、先生に申し出て、去年の9月から投球練習はやめています。秋の大会には、セカンドで出場しました。でも、焦る気持ちはありません。大切なことは、高3の夏の大会でベストな状態で投げられるようにすることだからです。今は下半身を鍛え

るための走り込みや、ケガをしない体をつくるための柔軟性を高める運動に力を注いでいます。夏までの個人的な目標は、145キロのボールが投げられるようになることです。そのためには今何をするべきかを考えながら、練習に取り組んでいます。将来の夢は、大学でも野球を続け、

社会人になってからも野球に関係する仕事に就くことです。でも、まずはその前に、残り少なくなった高校生活を1日1日充実したものにすることが大事です。このチームには手応えを感じています。仲間たちと一緒に悔いを残すことなく、野球をやり切りたいと思っています。

### 生徒が語る 2



千葉県立船橋古和釜高校  
1年生  
**高橋 優人**  
たかはし・まさと

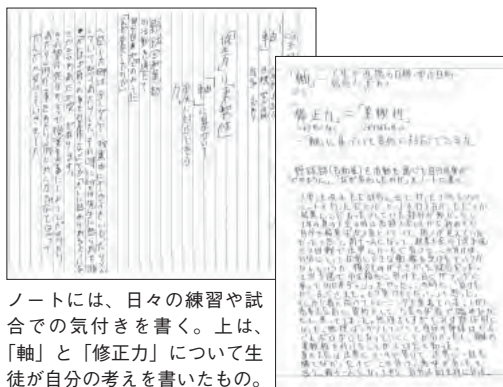
野球がうまくなりたいた  
だから勉強や生活もおろそかにしない

試合で満足できるのは  
日々の練習を頑張った人です

山口先輩も話していましたが、うちの野球部はすごく自由で、部長の望月先生や監督の矢口先生も、生徒の自主性に任せてくれます。でも、自由を与えられているからといっ

て、好き勝手にやっているというわけではありません。みんなどうすればチームが強くなるかを考えながら野球に取り組んでいます。

僕にとって大きいのは、ミーティングの時に先生が野球や人生に関するいろいろな話をしてくださることです。特に印象に残っているのは、



ノートには、日々の練習や試合での気づきを書く。上は、「軸」と「修正力」について生徒が自分の考えを書いたもの。

望月先生の「野球の神様はちゃんと見ている」という話でした。例えば、グラウンドにゴミが落ちていた時に、面倒くさがらずにそのゴミをちゃんと拾うことが、野球の向上につながる」と望月先生は言います。

これはすごく納得できる話でした。うちのチームでは、グラウンドをトンポで整えた後には、地面にトンポを静かにきれいに置くことを大切にしています。なぜなら、トンポを雑に置くことが習慣になっていく人は、野球のプレーも雑になるものだからです。心と体はつながっているし、ある行動は他の行動ともつながっています。僕はもともと野

球がうまくなりたい。そのためには、野球以外の場面での意識や行動も変えていかなくてはいけないと思うようになりまして。

例えば、風呂に入る時は、しっかりと湯につかって疲れを取ることを意識しています。夕飯の時は、「これが自分の体をつくるものになっていく」と考えながら食べています。

勉強に向かう姿勢も変わりました。僕は中学生の時は勉強が嫌いで、「早く授業が終わって家に帰りたい」と考えてばかりいました。でも今は、

授業をいい加減に受けている人は、野球の練習もいい加減になると思っています。だから勉強も頑張るようになり、この前の定期考査では学年2位になりました。「もし、野球部にいながら勉強で1位になればすごいぞ」と思って、今はそれを目標に野球も勉強も頑張っています。

監督の矢口先生は、「野球で勝つことも大事だが、もっと大事なのは野球を通じて人生の勝利をつかむ力を付けることだ」と言います。

野球の1試合は2時間ぐらいで終わります。けれども、その2時間の試合で「本当によく頑張った」と満

足できるかどうかは、毎日の練習にどれだけ真剣に取り組めたかに懸かっていると思います。試合はその集大成の場です。たぶん人生も同じです。毎日を大切に生きるからこそ、自分の人生に満足できるのだと思

ます。矢口先生の言う「人生の勝利をつかむ」とは、そういうことなのではないかと思っています。

この野球部に入ってから、僕の野球や人生に対する考え方が、本当に大きく変わりました。

## 教師が語る



千葉県立船橋古和釜高校  
望月正彦 もろつき・まさひこ  
教職歴29年。同校に赴任して2年目。1学年主任。

## 生徒の心の中に眠っている自主性を 野球を通してうまく引き出してあげたい

### 「野球ノート」で書く力と 考える力が深まります

私には理想の野球部像がありません。それは昔の野球少年のように、ただ純粹にみんなで野球をすることが楽しくて、もつとうまくなりたくて、みんなで考えたり工夫したりしながら、日が暮れるまでボールを追い掛けているようなチームです。そういうチームをつくるためには、生徒が進んで練習に取り組むような自

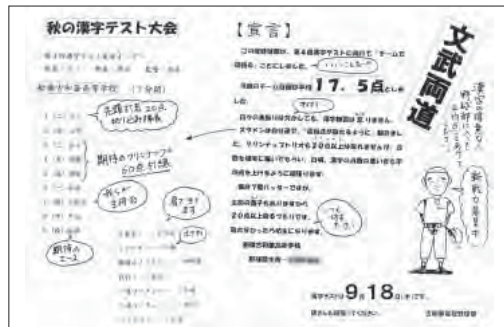
主性を育むことが不可欠です。

野球部に入部してくる生徒のほとんどは、好きな野球には自主的に取り組む力を持っていると思います。ところが、そんな生徒の自主性を指導者が潰しているケースが少なからずあります。少年野球でも、「さあ、アップしろ」「次はキャッチボールだ」といった指示に、ただ子どもが従っているだけというチームがたくさんあります。ミスをするとか叱られるので、子どもは大人の顔色をうか

がうっかりになってしまいました。私が野球部でやろうとしていることは、とても単純なことです。生徒の心の奥底に埋もれている「野球が好き。野球がうまくなりたい」という思いを引き出すことです。それが出来れば、生徒は、自主的に野球に取り組むものだと思います。

野球部では、生徒一人ひとりに「野球ノート」を持たせて、試合や練習の時に気付いたことを書かせています。教科の作文の課題には拒否反応を示す生徒も、野球のことなら自分やチームのことを振り返って一生懸

## 資料 校内の漢字テストに野球部として挑む



野球部では、日々の学習も重視する。部員が一丸となってテストに挑む様子を校内に伝える、望月先生作成の掲示物。

命書こうとします。生徒が書いたものに対しては私もコメントを返します。そのやりとりを繰り返すうちに、考える力がどんどん付いていきます。

また、毎週月曜日には読書会を開いています。生徒は、アスリートが自分の生き方や考え方を書いた本を読み、心に残った言葉を野球ノートにメモします。他者の生き方を知ることが、生徒にとって自身の生き方を見つめ直すことにつながります。

そのように自主的に野球に取り組む姿勢を育むうちに、自分の生き方にも、自主性を持って向き合える生徒が増えていくと思うのです。

## 自分たちで流れを変える力が付いてきました

私は、野球は「見るスポーツ」だと思っています。チームの攻撃中、みんなはベンチに座ってバッターの様子を見ます。守りの時には、ピッチャーが投げる様子をバックで守備陣が見守ります。そして気が付いたことがあったら、お互いに声を掛け

合って確認します。だからこそ、他の選手の好プレーを、自分のことのように喜ぶことが出来るのです。

けれども最近は、自分のプレーだけに集中する子、自分の役割さえ果たせばよいといった感覚でプレーしている子が増えていると感じます。

そこでうちのチームでは、ノックを受けている選手に対して、「良い形だよ」、「もっと低く」と、生徒同士で指摘をし合うようにしています。ノッカーに対しても、「良いボールを打っているよ」といった声が飛びます。うちの生徒は、声掛けがともうまいのです。

自分のことだけでなく、仲間やチームのことに意識が向けられるようになれば、試合でピンチを迎えた時でも、生徒の行動が変わってきます。「どうもみんな表情が硬くなっているぞ」と気付いた生徒が、わざとドジなことをやってチームの雰囲気や和ませるなど、悪くなりかけた試合の流れを、自分たちで変えることが出来るようになるのです。うちの生徒たちも、だいたいその力が付い

てきたと感じます。

私は、生徒たちの自主性を育むことも大事ですし、仲間と協力しながらチームとして物事に取り組んでいける力も大事だと思っています。どちらの力も身に付けさせることを意識しながら指導しています。なぜなら、その2つの力こそが、これから彼らが自分の人生を歩んでいく上で軸になると思うからです。



仲間と全力を尽くす中で、  
より良い価値を生む関係の  
あり方を学ぶ

## 愛媛県立松山東高校

●愛媛県立松山東高校  
運動会 概要

「愛媛県立松山東高校のスクール・アイデンティティーが具現化された行事」と言われるのが、9月に行われる運動会だ。まずは5月初旬に、全校生徒が学年縦割りの4グループ（青柳・紫雲・紅樹・黒潮グループ。各グループ約260人の生徒で構成）に分けられ、それから、5月のリレーカーニバル（リレー、綱引き、応援合戦を行うミニ運動会）、7月のボートレース大会をグループ対抗で競い合う。それらの行事を通して学年・クラスを超えた絆を深めた上で開かれる運動会は、まさにグループ活動の集大成と言える。

同校の運動会の最大の特徴は、生

徒の自主性を最大限に尊重する点にある。各グループの指揮を執るのはグループ長（1人）と副グループ長（4人）であり、グループのメンバーは、運動会を運営するために必要な作業を分担する「パート」に所属する。パートには、260人の生徒が乗ることが出来るやぐらを竹と縄だけで組み上げるパート、やぐらを飾る巨大なパネル絵を作るパート、運動会中に披露する10分間の劇をつくるパートなどがあり、それぞれパート長の指示の下、運動会本番に向けて夏休み中から準備を進める。グループ長、副グループ長、パート長の選出、メンバーのパート分け、そして企画の全てが、生徒主導で進められる。

## 生徒が語る



愛媛県立松山東高校  
2年生（理系クラス）  
梶原夕希 かじはら・ゆうき

同じ目標を持った仲間が支え合い、  
時に衝突し、お互いを高めた●運動会に向けて、  
グループの団結力を高めます

毎年5月、グループ別に初めての集会が開かれます。約260人のメンバーを前に、グループ長と副グループ長が運動会に懸ける自分の思いを述べるのですが、今年度、私のグループでは、先輩全員が「一人ひとりが役割を持ち、みんなで運動会をつくり上げたい」ということを話していたのが印象的でした。

それから2週間経つと、リレーカーニバルがあります。グループが初めて団結して臨む行事です。私も1年生の時、リレーカーニバルを経験して、「学校行事って楽しいなあ」「これからはもっと積極的に参加していこう」と思いました。7月のボー

トレース大会の頃には、グループの中のいろいろな人と学年やクラスを超えて仲良くなりました。

運動会の準備は、パートごとに進めます。やぐらを組むパート、やぐらを飾るパネル絵を作るパート、応援合戦でのダンスの振り付けをするパートのほか、劇、大道具などいろいろなパートがあります。私は1年生の時は応援パートでしたが、2年生では他のパートを臨機応変に手伝う「ヘルプ」というパートを選びました。それぞれのパートがどんな仕事をしているのかを知りたかったからです。実際、いろいろなパートを手伝うことで、例えばやぐらの組み上げ方など、何十年にもわたって先輩から受け継がれてきた技術、伝統のすごさを知ることが出来ました。



### 愛媛県立松山東高校

◎旧制愛媛県松山中学校以来の伝統を持つ。「より高く、より広く、より深く、そしてより豊かに」をモットーに、人間的魅力のあるリーダーの育成を標榜。野球部、サッカー部、ボート部、俳句部、囲碁・将棋部など、伝統、実績に秀でた部も多く、高いレベルでの文武両道を目指す。スーパーグローバルハイスクール（SGH）指定校。

◎1878（明治11）年設立。全日制・通信制／普通科／共学。1学年約360人。2014年度入試では、国公立大は、東京大、京都大、大阪大、愛媛大、九州大などに202人が合格。私立大は、慶應義塾大、早稲田大、同志社大などに延べ404人が合格（現役のみ）。〒790-8521 愛媛県松山市持田町2-2-12

<http://matsuyamahigashi-h.esnet.ed.jp/>

**目標が同じだから、衝突することもあります**

夏休み中は、補習が終わってから夕方6時の下校時間まで、ほぼ毎日準備作業をします。パート長の指示に従いつつも、グループのためにな

ると思つたら、下級生でも上級生に対して自分のアイデアを遠慮せずに言える雰囲気があります。

ただ、良い運動会にしたいと全員が強く思っているからこそ、意見がぶつかってしまうこともあります。私のグループでも、グループ長と

パート長の意見が折り合わず、議論が延々と続いた時期があったようです。でも、3年生の先輩がすごいのは、そうした様子を1・2年生には極力見せないようにしているところです。3年生がおろおろしていると、後輩たちを心配させてしまうので、議論は1・2年生が帰ってからするようにしていたと、後から先輩に聞きました。

先輩の後ろ姿を見て気付いたことは、みんなが1つの目標を目指す時には、自分が主体となって行動するだけでなく、他の人の主体性も尊重し、それを引き出す心配りが大切だということです。そして、意見が対立した時に、衝突を恐れて自分の意見を引っ込めるよりも、相手の意見と自分の意見のそれぞれの良いところを生かし、新しい展開へとつなげていく粘り強さが必要なのだと分かりました。

### 写真 運動会の準備風景



やぐらを飾るパネル絵を作る生徒たち。パネル絵の大きさは横幅24メートル。運動会の午前と午後で掛け替えるため、各グループで2枚ずつ制作する。

運動会の本番直前、大道具が壊れてしまったあるグループを、他のグループが自分たちの作業を止めて手伝う場面を見た時、「松山東高校の運動会の成功」は全員が目指す目標なのだと確信しました。

**全力を尽くした経験は  
受験にも生きると思います**

運動会を2度経験して、先生や保

護者が生徒の自主性を尊重してくれていることを実感しました。私たちが信頼して任せてくれるのだから、私たちがルールはしっかり守らなければいけないと自覚しています。そうしないと伝統が途絶えてしまうことをみんな分かっています。

長い準備期間の中で、悩んだり、困ったりしたこともたくさんあったはずですが、運動会が終わった今はどれもささいなことに思えます。それだけ運動会本番は盛り上がったし、楽しかったです。最後に校歌を歌った時は、たくさん生徒が泣きました。もちろん、私もです。

「目標に向けて全力を尽くした運動会の経験は、受験にも生きると思う」と、私は何人もの先輩から聞きました。確かに先輩を見ると、運動会の準備期間中も、昼休みなどに英単語帳を広げていました。そういう先輩の姿を見たから、私も勉強はちゃんとやりました。

今、私は医療系の学部を志望しています。もともと医療に興味があったのですが、運動会での経験を通して、自分は人と話すのが好きだと気が付き、人にかかわる仕事に就きた

いという気持ちが強くなりました。

来年度は、グループ長か副グループ長になりたいと思っています。先輩に憧れて、リーダーの仕事を希望する人はたくさんいるので、競争率はとても高いです。グループ長と副グループ長は、同じ3年生の仲間から「この人にはまとめる力がある」「この人は決断力がある」と評価さ

## 教師が語る



愛媛県立松山東高校  
石丸隆祥 いしまる・たかよし  
教職歴1年。同校に赴任して2年目。進路課。

# 生徒主体だからこそ 教師に出来る支援を見極める

**困難を自分で乗り越えてこそ、  
生徒主体になるのです**

本校の運動会は、基本的に生徒たちの力だけでつくり上げる行事です。各グループにおいて生徒は自分たちでそれぞれの役割を決め、企画を考えます。運動会のおよそ1か月前、7月の下旬には、応援席となる

れた上で、最終的には希望者同士の話し合いで決められます。自分の力量を見極められるのはしんどいですが、もしも希望がかなわなかったら残念ですが、それは仕方ないことです。グループ長や副グループ長になれなくても、同じ目標に向けて自分の役割を全うすればいい……きつと誰もがそう思っているはずですよ。

巨大なやぐらを組むために必要な竹を、山に取りに行くのですが、土地の所有者への許可申請、伐採、そして竹の運搬なども3年生を中心に生徒主体で行います。運動会に関する全てのことは、先輩から受け継いだことであり、3年生にはそれを後輩に伝えていく使命もあります。

私も同じ愛媛県の公立高校の出身

です。私の母校も学校行事は盛んですが、松山東高校がユニークなのは、確かに3年生が中心だけれども、1・2年生にも役割がちゃんとあるところだと思っています。やるべき仕事がない生徒は1人もおらず、逆に言えば、全員が協力しないと運動会が成り立たないのは、この学校の運動会の特徴と言えます。

そうは言っても、運動会の準備が始まった直後は、1年生の中には自分は何をすればよいか分からず、手持ち無沙汰な様子の生徒もちらほら見られます。2年生にしても、1年生の時と違うパートに入れば、何をすればよいかすぐには分かりません。そうした生徒を見付けては、3年生のパート長が「こんな仕事があるよ」「次はこの作業が待っているからね」と説明します。そうして何日か経つと、全員が最終的な運動会の完成形をイメージできるようになります。そうすると、1年生からパート長に「この作業の進め方は、このように変えた方がよいと思います」などと提案する場面も見られるようになるのです。

運動会の準備に、生徒は本当に一

## 写真 運動会当日の様子



竹と縄だけで組み上げたやぐらの上に260人の生徒が乗り、応援時にはその上で跳びはねる。やぐらの近くに飾り付けられた巨大な人形の制作、更に劇づくりなど、様々なパートが限られた時間で作業を進め、運動会本番を迎える。

思うのです。ただ、全力を尽くすことは、何であつても口で言うほど簡単ではありません。私は、それを多くの生徒に経験させてくれるのが、みんなが頑張る運動会なのだと思います。運動会で、大きな目標を達成する感動を味わうだけでなく、そこに至るまでの苦しみを共有する仲間をつくるのが出来れば、それが松山東高校の生徒として全員で受験に向き合う姿勢へとつながるはず。

運動会は、確かに生徒主体の活動です。しかし、生徒主体であり続けるためには、私たちが教師だからこそ出来るサポートとは何なのかを見極めることが大切です。例えば、校外で行うポートルースや竹取りなどの本校の伝統行事をこれからも地域の人たちに理解してもらえよう企画した、学校としての地域への奉仕活動などは、教師だから出来る配慮だと思えます。また、グループの運営をグループ長などに任せる一方で、彼らと面談を重ねながら、後輩に対する見方、接し方をより豊かにするように働き掛けていることもその1つです。



生懸命取り組みます。だからこそ、企画内容や作業の進め方を巡って、衝突することもあるようです。議論するうちに、感情が高ぶってしまった生徒の様子を目にしたこともあります。そんな時、私が「こうすれば解決する」と性急に割って入っては、生徒たちのためにはなりません。「こんな考え方もある」とアドバイスすることも時にはありますが、基本的

### 誰もが全力を尽くせるのが運動会なのだと思います

には生徒たちに任せています。私たち教師は、下校時間が来た時に、「今日はもう帰りなさい」と言うだけでは、困難を自分たちの力で乗り越えてはじめて、生徒主体の行事になるのだと思います。

私は、「やりたいことは全力でやってほしい」と生徒によく話します。そして、進学校なのだから勉強をするのは当たり前で、それ以外の遊びや趣味、部活動などにも全力を尽くしてほしいと伝えていきます。そうした経験がないと、受験勉強で自分自身を追い込むことは出来ないと思うのです。

運動会を終了直後、生徒たちはグループごとに集まり、それまでの努力をたたえ合います。多くの生徒が感極まり、涙するその傍らで、生徒が余韻に浸れるように、保護者、私たち教師、そしてこの日のために帰省した卒業生が、静かに片付けを進めることも何十年と続く伝統です。松山東高校にとって、運動会是最も大切な行事なのです。

# 高校生らしい高みを生徒に求め、 劇づくりの過程の中で 教師も生徒と共に挑戦する

## 大分県立大分舞鶴高校

### ●大分県立大分舞鶴高校 文化祭 概要

大分県立大分舞鶴高校の文化祭は「柏葉祭 文化の部」として、例年2学期が始まる8月の最終週に、2日間にわたって開催される。文化祭の発表では、学校の教室での展示もあるが、メインは学校近くのホールを会場にしたステージ発表だ。ただし、ステージ発表が出来るのは、事前の書類による企画審査に通過したクラスのみ。1・2年生全16クラス中、7クラスしか舞台に立つことが出来ない狭き門である。そのため、1・2年生の各クラスにとって、書類審査を通過してステージに立ち、観覧者の投票による最優秀賞に輝くことは大きな名誉であり、目標だ。

田所伸先生が担任を務め、工藤恵介さんが所属したクラスは、そのステージ発表でオリジナルの劇を発表し、1年生の時に2位、2年生の時には1位に輝いた。

生徒の自主性を尊重して進められる同校の文化祭では、田所先生のクラスも生徒が主体となって企画を練り上げ、夏休みの補習後の時間を使って練習を重ねていった。他クラスがミュージカルや音楽演奏などを発表する中、田所クラスは「自分たちが社会とかかわり、世界を変える」をコンセプトに、それまでにはない発想で創作に取り組み、そして、同校のステージ発表の歴史の中でも、特筆すべきユニークな劇をつくり上げた。

### 卒業生が語る



宮崎公立大 人文学部国際文化学科  
2年生  
工藤恵介 くらどう・けいすけ

## 常に上を目指すクラスが 社会とつながる新しい劇をつくる

### 高校生らしい感動を目指し 劇づくりに取り組みました

ステージ発表の企画は各クラスで自由に考えます。ダンスやコントなど趣向を凝らした企画が出されま

す。最優秀賞を取るには自分たちが楽しむだけでなく、見ている人に感動を与える必要があります。

1年生の時に僕たちのクラスが企画したのは、「ピーター・パン」の劇でした。田所先生にその案を説明すると、先生から「ピーター・パンの物語をただ演じるだけでは、自己満足で終わってしまわないか?」「次代を担う高校生だからこそ与えられる感動はないだろうか?」と言われました。「ピーター・パンは、フック船長と戦ってネバーランドを救う

んだよね。劇を演じる君たちは、その感動を物語の中だけで終わらせず、自分たちが生きる現実結び付けることは出来ないかな?」と先生は僕らに尋ねました。

実は、僕らのクラスの生徒は、当時の大分舞鶴高校の中で「タドチル」と言われる存在でした。田所先生の考え方に感化された生徒だから「タドチル」です。田所先生は、生徒のやる気を引き出し、もっと上を目指したいという気持ちにさせてくれる先生で、田所先生が受け持つタドチルには、前向きな生徒がたくさんいたのです。だから、先生の問い掛けを受け止め、もう少しみんなで考えてみることにしました。

クラスで話し合う中で、理想を現実のものにする手段の1つとして、



### 大分県立大分舞鶴高校

◎校是に当たる舞鶴魂「締め、頑張り、粘れ、押し切れ」というモットーを持つ。県下有数の進学校で、1年次より希望進路に応じた志望別クラス編成を実施。ラグビー部、カヌー部、バスケットボール部、テニス部など全国屈指の実績を誇る部活動も多い。スーパーサイエンスハイスクール（SSH）指定校。

◎1951（昭和26）年設立。全日制／普通科、理数科／共学。1学年約320人。2014年度入試では、国公立大は、一橋大、大阪大、神戸大、九州大、大分大などに224人が合格。私立大は、東京理科大、早稲田大、関西学院大などに延べ284人が合格（現役のみ）。〒870-0938 大分県大分市今津留1-19-1

<http://kou.oita-ed.jp/oitamaizuru/>

途上国の子どもたちのために募金活動を行う案が浮上りました。すると、そのプランを知った田所先生が、「駅前のデパートの前で、みんなが募金活動を出来るように交渉しよう」と言ってくれたのです。そして、「世界を変えるという気持ちで募金を呼

び掛けてみなさい」という田所先生の言葉に送り出されて、僕らはクラス全員で、大分が一番大きなデパートの前で募金活動をしました。その体験は、ピーター・パンのシナリオに大きな影響を与えました。僕らは、集まった募金をユネスコの

発展途上国の教育支援に寄付することを決め、ユネスコから世界の子どもたちの現状を紹介するパネルを借り、文化祭期間中に展示しました。そして、ピーター・パンの劇では、募金で集まったお金を1円硬貨に換えて、フック船長の船に飾り付けました。僕らタドチルは、自分たちの思いが劇中にとどまらず、行動となって少したく世界を変えたことを校内に示したのです。

### 社会を巻き込む力を 持っていることに気付きました

外の世界を巻き込んだ作品をつくったことで、僕らは「高校生でもここまで出来るんだ」という感動を味わいました。それは、ステージ発表部門で2位という結果以上に、大きな成功体験になったと思います。2年生の文化祭では、その年の春

### 写真 田所クラス1年生のクラス発表「ピーター・パン」より



1年生の時の文化祭で、田所クラスは「ピーター・パン」の劇を制作した。子どもたちのための募金活動を行うなど、社会とつながることを意識した劇づくりで、ステージ発表部門で2位に輝いた。

に発生した東日本大震災からの復興をテーマに劇をつくることが決まり、僕が主役と監督を務めました。高度成長期の日本の風景を描いた映画「ALWAYS 三丁目の夕日」をモチーフにすることはすぐに決まりましたが、感動を与えるには更に工夫が必要だと、クラスみんなが考えていました。しかし、良い案はなかなか浮かびません。そんな僕らに

田所先生は「いろいろな人に、復興への思いを聞いてみたらどう？」とアドバイスをしてくれました。そこで僕は話し合い、企業や官庁、国際機関に手紙を出して、復興へのメッセージをもらうことにしました。

日本の未来への期待と、その実現のために必要なことについて、様々な人たちが答えてくれました。国連の公式フェイスブックで「日本の高校生からこんな質問が来た」と紹介された時は、全員が拍手して喜びました。たくさんの回答を劇のセリフに盛り込み、更に全てのコメントを劇のエンドロールで紹介しました。

### 納得できる達成感 は受験への自信になりました

2年生の田所クラスの劇は、ステージ発表部門で1位になりました。もちろんうれしかったのですが、準備の段階から1位を取る予感がありました。なぜなら、クラスの誰もがいつも劇のことを話題にしている、劇づくりでクラスがまとまっていることを感じていたからです。

実は夏休み中、僕らが勉強にも劇づくりにも没頭できるようにと、田

所先生がクラス全員で参加する宿泊合宿を企画してくれました。先生は自ら企画書を作り、学校と交渉してくれたのですが、残念ながら許可は下りませんでした。田所先生は、企画が実現できないことを教室で報告すると、僕らに向かって「申し訳ない」と深々と頭を下げたのです。もちろん、クラスの誰一人、田所先生を責めようとする人などいませんでしたが、先生が頭を下げる気持ちは分かる気がしました。先生も、より

### 教師が語る



大分県立大分舞鶴高校  
田所 伸 たどころ けん  
教職歴12年。同校に赴任して8年目。1学年主任。

## 高みを目指すことを生徒に求めながら、 自らもその姿を生徒に示す

### 失敗を笑わないクラスを つくりたいと思いました

1年生に対する指導で重視しているのは、もう中学生ではないこと

良い劇をつくりたいと願う、クラスの一人だったのだと思います。

2年生の劇づくりが終わった時、僕は今まで以上に田所クラスが好きになりました。2学期からの授業が一層楽しくなりました。そして、志望大合格に向けて自分が何をやっていけばいいのか、必要なプロセスが見通せるようになっていきました。それは、劇づくりで納得できるものをみんなでつくるのが出来たという成功体験があったからだと思っています。

「よ」と生徒に要求します。2年生になつたら更に背伸びをさせ、失敗も経験させなければいけません。

劇づくりにおける高望みは、空想の中にとどまらず、高校生として現実の社会とつながることだと私は考えました。演劇部顔負けの上手な演技で観客の心に迫るのも良いけれど、クラス全員の出し物としてつくるのであれば、世界と自分のつながりを考え、今後の生き方に影響するような作品をつくらなければならないのです。文化祭の劇づくりは、彼らの成長の機会なのですから。

しかし、最近の生徒は、高望みすることを苦手になっています。だから教師には、高望みし、アクションを起こした仲間に敬意を表する雰囲気を作ること、高みを目指すことが求められます。高みを目指して失敗した仲間を笑うようなクラスをつくるわけにはいかないのです。

本校では1年生の4月の教育合宿で、クラス対抗の校歌斉唱コンテストがあります。ある日、工藤君のクラスメートの1人が、コンテストに向けて朝練習をしようと提案し、クラス総出の練習が始まりました。す

写真 田所クラス2年生のクラス発表「ALWAYS 2.3 丁目の夕日」より



この年のステージ発表部門の最優秀賞となった田所クラス（2年3組）の作品。東日本大震災から日本はどのように復興していくのか、官庁や教育機関、国際機関にアンケートを行い、様々な意見を集め、劇のストーリーづくりに生かした。

2年生の劇づくりで一番うれしかったのは、生徒が私の指示を待たずに、自分たちでどんどん動くようになったことです。

これまで私自身は考えていませんでした。あれはあくまで生徒たちのアイデアです。そこからどのように展開していくかは分からないけれど、とにかくやってみようという気持ちは、失敗を恐れない高望みと同じだと思います。

夏休み中、下校時間後も、学校近くの河川敷に集まって練習を続ける生徒を見て、私は彼らのために何かしたいと考え、劇の練習と勉強にクラスみんなで取り組む宿泊合宿を企画しました。しかし、私の計画が甘く、その企画を通すことは出来ませんでした。生徒に「この企画は必ず実現させる！」と宣言していた私は、何度も交渉しましたが、最後は諦めざるを得ない状況になり、私は生徒に「頑張ったけれど駄目だった。申し訳ない」と頭を下げたのです。

私は、良い劇をつくるために、生徒と一緒に自分に来ることやろうとしている姿を、彼らに見せたかったのです。生徒に頭を下げた私は、再び学校と交渉して、校内でのクラス・バーベキュー大会を実現させ、クラスの一員として彼らの時間を楽しみました。



ると、それを見た他のクラスでも同じように朝練習が始まったのです。私はその様子を例に、「1人が変わるとクラスが変わり、クラスが変わると学年、学校が変わる。君たちには社会を変える力があるんだ」と話しました。大切なのはアクションを起こすことだという私の言葉をずっと聞いてきたのが、工藤君たちタドリルなのです。彼らだからこそ、劇

づくりはどうつながっていくかまだ分からない募金に、恥ずかしがらずに取り組むことが出来たのでしよう。

### 自分が闘う姿を生徒に見せたかったのです

2年生の劇づくりでは、復興をテーマにいろいろな人に考えを聞いてみることを勧めはしましたが、それを劇のセリフに生かす

くることです。だから教師は、世界とかかわり方、高みを目指した闘い方を、自分の姿を通して見せていくべきだと思います。挑戦をすれば、生徒も教師も失敗することはあるでしょう。しかし、そんな時にも生徒にはクラスメートがいます。そして、私たち教師には同じ志の仲間がいます。だから私は、たとえ失敗しても、何も恥ずかしくないのです。

# 生徒同士が高め合う場、 ロールモデルと出会える機会を 校内につくり続ける

変化の大きな社会を生き抜く上で必要な、自分の志である「軸」と、その「軸」に基づいて変化に柔軟に対応する「修正力」を育むために、教科外活動ではどのような役割、配慮が教師に求められるのだろうか。学校事例で話を聞いた4人の教師が集まり、教科外活動への思いを語り合った。

## 出席者



東京都立小山台高校  
山本美園  
やまもと・みその

**学校事例概要** ● 様々な社会人との出会いや探究学習で構成される体系的なキャリア教育で「大学までではなく、大学からの人材」を育成。(詳細はP.6)



千葉県立船橋古和釜高校  
望月正彦  
もちづき・まさひこ

**学校事例概要** ● 野球部で「野球ノート」や読書会などを通して生徒の考える力を伸ばし、主体的に活動できるチームづくりを進める。(詳細はP.10)



愛媛県立松山東高校  
石丸隆祥  
いしまる・たかよし

**学校事例概要** ● 学年縦割りのグループをつくり、生徒主体で運営される運動会を通じて、リーダーシップとフォローアップを育む。(詳細はP.14)



大分県立大分舞鶴高校  
田所伸  
たどころ・しん

**学校事例概要** ● 文化祭のクラス別ステージ発表で、田所クラスが「世界とつながる」をコンセプトに新しい劇づくりに挑戦した。(詳細はP.18)

## 「軸」と「修正力」をキャリア教育で育む

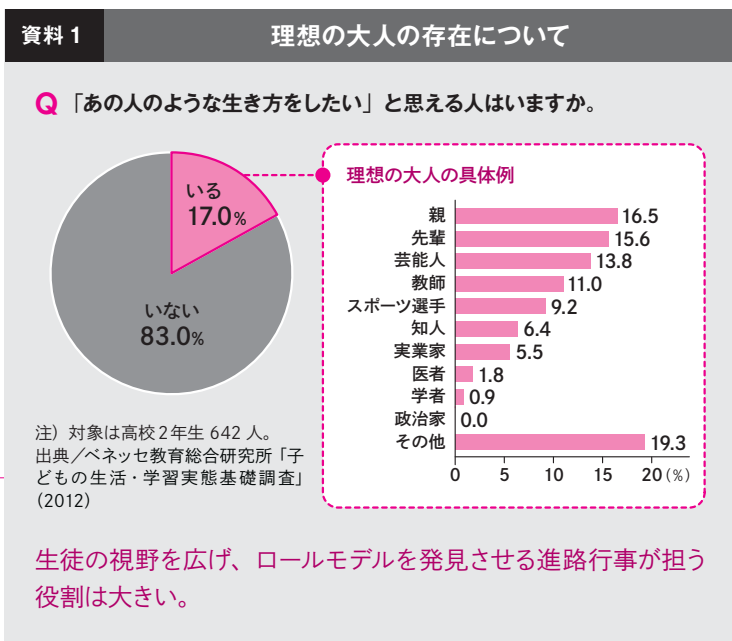


山本 変化する社会を生き抜くために自分の中につくる軸、

志を育むことは、高校におけるキャリア教育の重要なテーマです。私たちがしばしば「生徒の可能性は無限である」と言いますが、もちろん、私もそう確信していますが、重要なことは、生徒自身にいち早くそのことに気付かせるということです。その気付きの機会をつくり、大きな志を

持たせることが、本校のキャリア教育プログラムの狙いです。

志は不変なものではなく、大学、社会人へと成長する過程で変わることがあります。その時に必要なのが、軸となる部分を大切にしながら、目の前の現実に対応していく修正力です。進路を変更する際には、思い込みで変えてしまうと軸から外れてしまうことがありますから、広い視野とそこから自分に必要なもの



**自分が置かれた状況を解釈する力を養う**

山本 キャリアガイダンスで、人生の岐路を体験した多様な社会人の話を取捨選択する力も必要です。キャリア教育プログラムで情報収集力や情報分析力を高めていくことが、修正力の育成につながるのです。

を聞くことで、生徒には「あの人のように生きたい」「自分もあの人のようになれるかも」と気付いてほしいと思っています。そうなれば、大学はゴールではなく、あくまで通過点の1つになります。卒業生の中山さんは、社会人の話を受け止めて自分の軸を更にはっきりとすると同時に、他者の生き方を自分の中で消化して、自分自身のストーリーとして描き直しました。だから、第1志望の大学に不合格になるなど、自分が思い描いた通りに物事が進まない時でも、悩みながらではあります。夢を実現するためのアプローチ方法やプロセスを修正することで壁を乗り越えられましたし、その度に軸を一層太くしたのだと思います。紛れもなく、中山さんは、私たちがキャリア

教育プログラムで育てようとしている人材モデルの1人です。

**田所** 目標に到達するためのプロセスが想定と違っても、「これは前向きな進路変更であり、安易な妥協ではない」と、自分が置かれている状況を冷静に解釈する力を、中山さんは高校時代に身に付けたのでしょう。

**望月** 生徒の思考や学力に合わせ

## 「人の中の成長」が人生の軸となる



**望月** 本校の野球部が一番大事にしていることは、人とのつながりです。それは、仲良く練習するということではなく、人とのやりとりを密にしていって上達し、自分の成長を実感させることです。野球に限らず、何に取り組みむ時でも、人とのつながりを大切にし、それを喜びとする気持ちを、人生の変わらぬ軸として持つてもらいたいと思っています。どんな進路を選んでも、生徒は人の中で生きていくわけですから、自分の状況を解釈するためのヒントを与えるのは教師の仕事です。ね。解釈する力がないと混乱して、感情がコントロールできなくなり、表情や態度にも出てしまいます。本校の野球部の生徒が野球ノートを書くことで、自分の状況を解釈する力を高めることは、生きるための学力を獲得することと同じだと思っています。

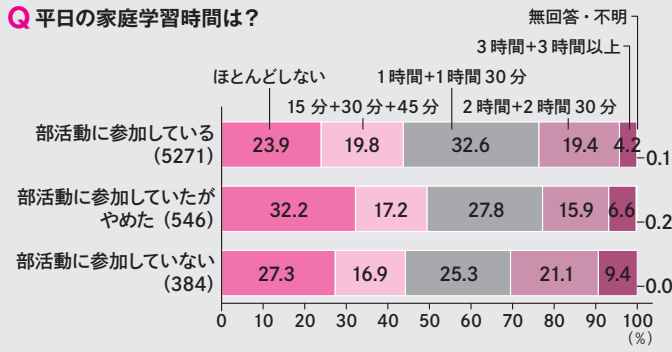
から、仲間を大切にして生きることの素晴らしさを高校で知ってほしいですね。

中学校と高校の野球を比べると、ルールや必要なスキルはほとんど同じです。しかし、中学校と高校では、練習への取り組み方が違います。副キャプテンの山口君は、その違いを感じていると語っていましたが、それは単にスパルタかどうかではなく、やらされている練習か、それとも自分たちでやる練習かの違いだといえそうです。だから彼らは、

で、自分の状況を解釈するためのヒントを与えるのは教師の仕事です。ね。解釈する力がないと混乱して、感情がコントロールできなくなり、表情や態度にも出てしまいます。本校の野球部の生徒が野球ノートを書くことで、自分の状況を解釈する力を高めることは、生きるための学力を獲得することと同じだと思っています。

資料2 部活動への参加状況と平日の家庭学習時間

Q 平日の家庭学習時間は？



注) 対象は高校1・2年生 6201人。( )内はサンプル数。  
出典/ベネッセ教育総合研究所「第2回子ども生活実態基本調査」(2009)

部活動に参加している生徒は、参加していない生徒よりも平日の家庭学習を「ほとんどしない」の比率が低い。

く習慣を身に付けてきていない生徒が少なくありません。ペンを手に、考えることをまずは大切にさせたいという思いがありました。ですから野球ノートでは、書き方や構成などには指示を出さず、何をどんなふうにも書いてもよいことにしています。大事なのは、ノートに書かれた内容に対する私のコメントです。「夏は暑いけれど頑張ろう」など、どの生徒に対して私が書くようでは駄目です。

心に迫る言葉を投げ掛け、生徒の成長を促す

**田所** 望月先生の指導をうかがって、日々の練習以外でも、自分で判断させたり、考えさせたりする場面が多いのだらうと想像しました。

**石丸** 野球ノートを書くことは、考えさせる場面の1つなのでしょうね。

**望月** 本校には、高校入学までに書く習慣を身に付けてきていない生徒が少なくありません。ペンを手に、考



「『あの人のように生きたい』という軸が自分の中に出来れば、大学がゴールではなくなる」 山本

す。「君は次の試合でここを頑張れ」「この部分が伸びてきているぞ」と、一人ひとりの生徒の心に迫る言葉を掛ければ、生徒はノートを書くようになり、ノートを書かないと

全員に成功体験を味わわせる



**石丸** 学校行事で育まれる軸は、部活動同様、仲間と高い目標を実現することを喜びとする気持ちだと思っています。本校の運動会では様々な役割があり、適材適所を生徒たちがお互いに見付け合い、それぞれの役割を決めていきます。相手の良いところを把握しながら、同じ目標に向かって仲間と取り組むという軸をつくっていると思います。

運動会は、全ての生徒が最後に「良かった」「ありがとう」と感動を共有しながら成功体験を味わえる場

「チームメートの成長に自分は置いていかれるかも……」と、良い意味での焦りを感じ取るようになるのです。それも人との触れ合いの中での成長です。

です。また、運動会での体験を語ってくれた2年生の梶原さんは、先輩の姿から多くを学び、次の運動会のリーダーを志しています。彼女が学んだリーダー像は、周囲を引っ張るだけではなく、それぞれがどんなところで頑張る、苦労しているかを知って、全員が成功体験を味わえるような配慮が出来る人だったはず。本校の生徒たちが、周りの人を豊かにするリーダー像を持っていくことが、私はとてもうれしいです。  
**望月** グループ長や副グループ長を話し合いの中で選んでいけるのは、



「人とのつながりの中での成長を喜び、  
求め続けることが出来る  
若者に育てたい」 望月

生徒が、良い集団をつくるためには、自分よりもふさわしい人がいた時は、自分は別の役割で全力を尽くせばいいと分かっているからですよね。目標が明確だから、最も適切な人を選ぶことが出来るのでしよう。

**田所** 運動会での成功体験は、この先、何かでつまずいた時に立ち直る際の原動力となるでしょう。そうして、成功体験を土台にしながら失敗を乗り越えることで、修正力は養われていくのだと思います。

### 生徒の本気を後押しするのは教師の本気

**山本** 準備も含め、運動会をこれだけ本気で楽しめれば、勉強への切り替えも早いのではないですか？

**石丸** はい、切り替えはとても上手だと思います。本校の生徒は、休み

## 夢を語りづらい時代に夢を語る力を育む



**田所** 今の生徒たちが生まれたのは、バブル経済崩壊以降で

あるため、彼らは日本社会の豊かさを実感しにくく、夢が語りにくい時代を生きていると言われます。私は、そんな時代に生きるからこそ、太い軸を持ち、大きな夢を語る生徒を育てたいと思っています。ただし、夢

時間は正直、少々騒がしく感じてしまう程、元気で。けれども、授業の開始1分前になると、教師が何も言わなくても、すっと静かになります。遊ぶ時も本気だから、学ぶ時も本気になれるのだと、彼らを見て実感します。

私は、学校行事は、「本気の遊び

心」を開花させる場だと考えています。そして、生徒を本気にさせるためには、教師も心から学校行事を楽しまないといけないと思うのです。運動会の準備や競技に参加しなくても、生徒から「先生が一番運動会を楽しんでいましたね」と言われるくらいにのめり込むことが、生徒の本気を後押しするのだと思うのです。そして、学校行事を本気で楽しんでいるから、学校行事を地域にもっと愛してもらうために出来る配慮はなにか、本校の教師は真剣に話し合えるのだと思います。

を語るためには、今の自分の立ち位置を知らなければなりません。その時に必要になるのが、自分という存在を定義するための異文化との接触と接触するためには、校外に飛び出していくか、校内に外の世界を取り込んでいくことが必要です。そこで私は、文化祭でも、工藤君はじめ当

### 寄り道を楽しむ生徒を育て、社会を変える

時の田所クラスの生徒たちに世界とつながることを求めたのです。

国際機関や大学、企業などに手紙を書き、返事をもらうことで、高校生でも、アクションさえ起こせば外の世界とつながることが出来るのだと実感したでしょうし、異文化とつながるための手法やスキルをもっと知りたい、身に付けたいと彼らは思っただけです。

**田所** 今の生徒に対して感じるのは、課されるものが多く、それをこなすのに精いっぱいだという事です。だから、生徒はおのずと効率性を追求するようになり、立ち止まって考え、夢を更に大きく描こうとすることが少なくなっています。だからこそ、私は生徒が立ち止まることを認めてあげたいですし、そこそこのレベルの夢で満足している時は、「君なら、もっと出来るはずだ」と目線を上げさせることを大切にしていきます。

「スクール」の語源は、ギリシャ語で「余暇」を意味する「スコレー」です。文化祭で優勝を目指すのはどのクラスも同じですが、効率的に練習を重ねて直線的にゴールに向かうか、寄り道をしながらゴールを目指すか、どちらの道の方がより多くの景色が見えるのかを、生徒たちは分かっていたのだと思います。更にそうした寄り道をしている間、私が待つてくれることも分かっていたのでしよう。

**山本** 立ち止まって考える力は、1年生のうちにご自身に付けたいものですよね。一部の大学では、既にギャップイヤーなどを通して、寄り道をして生き方を深める力を育てようとしています。私たち高校教師もそうした変化の意味を改めて考えたいですし、社会全体が立ち止まって考える力をもっと大切にしようになればいいですね。



「まず自分ががむしやらかに  
高い目標を目指すことで、  
生徒の夢を育めるはず」 石丸

**田所** そう思います。寄り道をしながら考えることを、個人に求めるだけで終わらせず、クラス、学年、学校の中に文化として広げていきたい

## 夢を持ち続ける姿を生徒に見せる

**石丸** 生徒が大きな夢を持つためには、彼らと接する私たち教師も、大きな夢を持つことが大切だと思うのです。以前、ベテランの先生が遅くまで残っていたので、その理由を聞いてみると、「自分が作った模範解答よりも、生徒の解答の方が良い時があるんだよ。良い解答を見付ける度に採点を最初から見直すから、なかなか終わらないんだ」と笑顔でおっしゃいました。私は、「突き詰める限り仕事に終わりはなく、教師が上を目指すから生徒もついてきてくれるのだ」と、そのベテランの先生から学び、自分もそんな教師にな

です。私たち高校教師がそうした考えを持つ生徒を育てることで、大学改革や社会の変革は更に進んでいく……それが私の夢です。

りたいと心から思いました。

生徒に「大きな夢を持つ」と語る時、田所先生のように「自分もこんな大きな夢を持っている」とか、「こんな先生になりたい」と生徒に自分を打ち明けければ、生徒もきっと「自分も夢を持とう」と思ってくれるのではないのでしょうか。キャリアの浅い私だからこそ、あんなふうになりたい、こんなことをやってみていこうと高望みして、がむしやりにやっていたいとなると、今日先輩方のお話を聞いて思いました。

**田所** そのがむしやらさは、きつと先輩教師が支えてくれると思えます。私は校内でいろいろな企画を出しますが、全てが通るわけではなく、中には却下されるものも、もちろんあります。そんな時にも先輩や管理職が「本当は分かっているんだ」とひと言、言ってくれるのです。先輩

たちは、私を育ててくれているのだと感じます。だからこそ、当初の企画が通らない時も、すぐには諦めずに、「代わりにこの企画ならどうですか」と、粘り強く提案することが出来ています。

**望月** 自分の案がすつと通らないからこそ、代案を考える力も付くし、粘る中で本当に大事なものを見抜いていく、そういうメリットもありますよね。教師も、跳ね返されることで修正力が付きます。

**山本** かつて、キャリア教育が高校現場で始められた時もそうでしたが、新しい視点での試み、挑戦に対する受け止め方は、教師といえども人によって様々です。それでも、私たち教師は衝突を恐れずに校内に新しい取り組みを提案し、そして同じ教科、同じ分掌から、1人ずつでもいいので仲間をつくって、校内全体をゆっくと巻き込んでいきたいですね。

**田所** 私も学年団という同志がいるので、大きな夢が持てます。それは生徒にも言えることだと思います。校内、そして校外で、私はこれからも仲間づくりを進めていきます。



## 軸を持ち、生き方を修正する モデルになる

**山本** 社会がどう変化しても、自分の可能性を信じ、高い志を持ち続けられる生徒を育てたいと思います。もちろん、失敗はつきものですが、そこからどう修正し、再び立ち上が

るか、これからもそのヒントを与えていきたいです。いずれは小山台高校の現在のキャリア教育を経験した社会人をメンターとして迎え、身近な相談相手として生徒と接してもらうことも考えています。そうして志を持った卒業生に集まってもらい、小山台高校を発信地にして、時には学校の枠を超えながら新たな取り組みへと発展させるのが私の夢です。

**望月** 部活動は、本校の生徒たちにとって、「やれば出来る」ということを実感し、周囲にも示すことが出来る貴重な場です。「やり方によっては、自分たちだってこれだけのことが出来るんだ」と、彼らの自信になってくれることを望んでいます。もちろん、校内で野球部に所属するのは一部の生徒に過ぎませんが、野球部が活躍することで「うちの野球部は強いんだ」と他の生徒にとっても誇りとなります。学校を結束させる力があるのが部活動なのではないでしょうか。部活動も「本気の遊び」です。本気でやっていると自然と人は集まってくることで、本気は周りを

動かすことを実感させたいですね。

**田所** 本校の校是に当たる舞鶴魂は、「締まれ、頑張れ、粘れ、押し切れ」と私たちを鼓舞します。それは部活動や受験にも通じます。私は現在学年主任をしている64回生全員に、夢や目標という自分の軸、志を高く持ち、更に背伸びをしてほしいです。私は生徒に、「君たちは、今自分が何と闘い、どんなアクションを起こしているか答えられる人間になりなさい。私も、何と闘っているかを常に語る人間であり続ける」とよく話すのですが、先日、ある女子生徒が、「私、アクションを起こしました!」と言うのです。聞くと、大分県で開催された地熱学会に参加し、進学希望先の東北大の教授に思い切って声を掛けたそうなのです。彼女はその教授から名刺をもらい、



「自分はどんな夢を持ち、何と闘っているかを生徒に語れる教師であり続けたい」  
田所

メールを介して学術に関してのコミュニケーションを構築したと、誇らしげに笑顔で私に教えてくれました。

私は、日本は教育によってもっと良い国になると本気で思っています。その思いがあるから、全国の同志とも交流を続けています。思いがあれば社会は動き、世界は変わることを信じ、これからも、自分が闘う姿を生徒に見せていきます。

**石丸** 私も、軸を持ち、修正していくモデルとして、自分の姿を生徒に見せたいと思います。夢を追う楽しさを生徒と語り合いながら、私には「君にはこんな力があるよ」と話したのなら、共に夢を語る同志として、生徒は私の言葉を素直に受け入れてくれるはずで。そうして、生徒の夢を大きくしたり、軸を太くしたりする手伝いが出来ればと思います。

# 2年生から3年生への つなぎ指導のあり方

新課程において、理科を中心に受験に向けた負荷が増大したことで、低学年時からの国語・数学・英語の学習内容の定着と受験生への意識の切り替え指導が一層重要となっている。そこで、今号は、生徒の学力と受験に向けた意識を高めるために、学年またぎの時期の指導を工夫している2校の事例を見ていく。

## 学校事例 ①

### 山形県立鶴岡南高校

## 6月まで部活動をやり切らせながら 模試の活用で受験生の自覚を促す

### SSHの特例を生かした 柔軟なカリキュラム構成

山形県立鶴岡南高校は、2012年度、スーパーサイエンスハイスクール（SSH）の指定を受けた。新課程における理数科目の内容増加への対応も視野に入れて、学校の方針に沿って単元の配列を組み替えた「SS数学」「SS理科」導入の検討を、取り組みの柱の1つにした。数学の関連事項をまとめて教えたり、理科の基礎科目と4単科目の内容を組み替えたりと、カリキュラムを柔軟化し、知識の効果的な定着を図っている。

また、数学の授業は、以前から、数学科が毎年改訂を重ねている自作プリントを中心に展開してきたが、新課程の導入期に内容の精選

や追加などを行い、進度を速めることを意識した。進路指導主事と数学担当の砂田智先生は「問題中心のプリントを単元に入る前に生徒に配布することで、意欲の高い生徒が自分で先に進めるようになっています」と語る。「SS数学」は2年生2学期終了時点で旧課程と同程度の進度を維持しており、内容増加を考慮すると、実質的にスピードは上がっているという。

### 難関大志望者集会と県主催の セミナーで意識を切り替え

2年生2学期以降、授業進度と共に重要になるのが、受験に向けた意識の切り替えである。部活動の加入率がほぼ100%の同校では、3年生6月までは部活動にも全力で取り組ませる。そうした中